

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沼 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

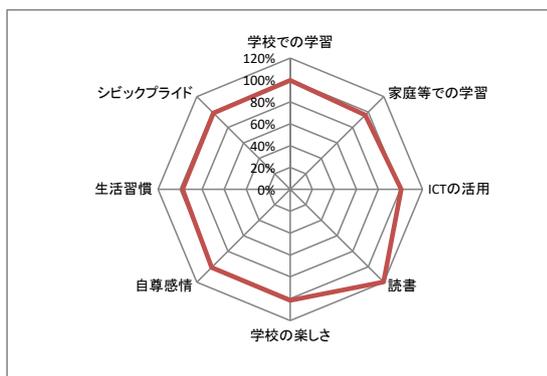
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全国平均と同様に、目的に沿って自分の考えをまとめたり、根拠を明確にして考えたことを記述したりする問題の無回答率が高かった。 ・話すこと・聞くこと、我が国の言語文化に関する問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・言葉の特徴や使い方に関する問題、話すこと・聞くこと、表現の効果について根拠を明確にして考える問題。	
	努力が必要な問題	・読むことの領域で、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることに課題がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・数学的な表現を用いて説明すること、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し説明すること、構想に基づいて証明する問題については、無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・データの活用の領域で、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題。	
	努力が必要な問題	・図形領域全般の問題、数と式の領域の自然数の意味や数と整式の計算に課題がある。	
英語	全体的な傾向や特徴など	・社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと、「相手の行動を促す」という言葉の働きを理解し依頼する表現を正確に書くことについては、無回答率が低かった。話すことに関しては日常的な話題の考えや理由を述べる正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・読むことの領域において、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る問題。	
	努力が必要な問題	・聞くことの領域において、日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る問題や社会的な話題について短い説明の要点を捉える問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」「各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動」については約8割の生徒が肯定的な回答をしている。 ・読書が好きと回答した生徒の割合が70%を超えた。朝自習や読書週間の取り組みの成果である。 ・「授業でPCやタブレットなどのICT機器を週3回以上活用している」の問いに対しては5割の回答だった。今後は教師からの提示だけではなく、生徒が活用できるよう啓発していく。 ・「自分には良いところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれている」の問いに対しては8割以上の肯定的な回答を得たが、さらに自分に自信がもてるよう「おもしろい」「わかった」と思える体験を進める必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・授業中、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫させる活動をこれからの授業でも意識して取り組んでいく。
・これまでもICTの活用においては、職員の「互見授業」で研修を行っているが、さらに全校体制で取り組めるよう研修を重ねていくとともに、内容についても検討が必要である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・毎日の家庭学習を「沼ノート」として自学の取り組みを行っているが、活用の仕方については今後検討が必要である。また、定期考査前は特に、自分で計画を立てて学習する習慣をつけさせたい。
・毎日の朝食を摂ること、家庭でのスマホやゲームに使われている時間の改善については、家庭にも呼びかけを行う必要がある。